

東北ILCプロジェクト開発センターでは、ILCの建設を見据え、岩手大学やまちづくりコンサルタント会社（2023年度は7社）と共同研究を行い、ILC建設候補地が抱える地域課題を解決しながら、海外の研究者やその家族が快適に暮らせる東北ならではのまちづくりを進めている。

都市計画における目標

里山の豊かな自然環境を活かしたまちづくり

ILCの候補地である東北地方は、豊かな自然に恵まれ、日本古来の文化が息づいています。外国人研究者が誇りと憧れを持って環境の中で、研究者のQOL（クオリティ・オブ・ライフ）を確保し、家族が来なくなる環境、創造性を刺激する街づくりを目指します。

この都市計画は、日本国土計画協会が策定した「ILCがもたらす地球村」のビジョンに基づいている。



東北の立地と地域を活かした街づくり資源里山（海）、農村地域資源活用、古民家、歴史的景観地域、伝統・食文化、温泉、スノーアクティビティ

地球村創生ビジョン
Earth Village Vision
国土計画協会

スタディ・トピックス

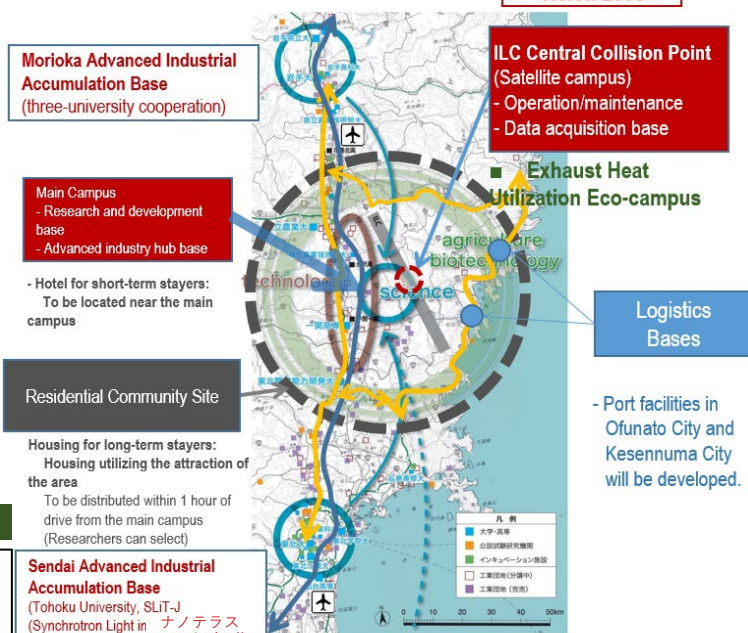
- (1) 研究者のQOLの確保
- (2) (2) ILC関連産業の創出
- (3) (3) グリーンILC→カーボンニュートラル

都市計画研究の概要

岩手県盛岡市と宮城県仙台市の間に位置し、ILCメインキャンパス、ILC中央コリジョンポイント・サテライトキャンパスを核とし、キャンパスから車で1時間圏内に分散配置された地域一体型の住宅地で構成される。

約12,400人のユーザー研究者が来日
+
利用者とその家族の30% 約8,000人

Vision 2035



都市計画のコンセプト

Aiming to urban development that continues to evolve together with the region by effectively using rich natural and local resources, responding to social demands for the SDGs and carbon neutrality, and working on advanced technologies for the introduction of Society 5.0

